京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年 紀元二千五百七十一年
定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金[illegible]▲三ヶ月前金[illegible]▲六ヶ月前金[illegible]
日曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行金[illegible]
發行兼編輯人 高木久一郎
印刷人 松久[illegible]
發行所 京城西小門[illegible] 京城新報社
仁川支局 仁川宮町三丁目
東京支局 東京市京橋區南鍋町[illegible]

群山通信（十月廿七日）

愛水生

▲四、米穀取引所設立問題である此問題に關しては曾て之を詳報し置きたれば再び茲に記せざる可し要するに當港の如き米穀の大集地にありては米穀取引所を設立するの件は最も必要の事であらうと思ふ

▲二の外街近郊海濱根據地築港問題遊廓問題及水道問題等あれども水道問題を除きては只一部の人士間に唱道せらるゝのみにて前記の四問題に比すれば實際影響極めて狹小にして僅に其存在を認めらるゝに過ない

▲去る二十二日より邊山江景間の鐵道開通は鐵道の方面より當港に刺激を與へて何となく人氣を引立て當港にても江景港の開通亦一日も速ならんことを希望して居る

▲邊山江景間鐵道開通して以來當港にとり最も痛快と利便を感ぜしものは郵便物の遞送及京城並に釜山方面行に於て著しく時日の短縮せられし二點である從來京城及釜山方面より來る郵便物は太田江景間に於て一日を費せし爲め約三日間の時日を要せしも鐵道開通後は僅に一日にて到着するに至り又京城及釜山行も同樣のこととなりたれば一般商業者に便益を與ふるに至りたると共に邦人は交通機關の發達が如何に人文の發達及び産業の開發を助長するに至大の効果あるかを目のあたり目擊したる

▲久しく混沌たる狀態の下にありし當港の米界も頃日々々地方より米の廻着增加せると共に漸く新生面を開き小口ながら内地との取引も弗々開始せらるゝに至り現に昨日の如き一千叺餘り大阪へ移出あつたとのことである

▲斯る折柄突然鎭南浦の新井氏より仁川より本月期米の受渡米用として一萬二千叺と云ふ大口注文入り來りければ市場遽に活氣を帶びて埠頭の光景宛然戰場の如く(愈々回送を要せし爲め)漸く昨日迄に全部積出を終りしも尚今後此種の注文續々來る可き模樣なれば當業者は目下孰れも其準備に忙しく市場何となく出穀期らしき光景を現出するに至つた

▲市場は斯の如き狀勢なるに拘らず豊年は爭はれぬもの米價は日に日に低落して昨日の如き終に十一圓五十錢臺に落込みたるが前月上旬の十四圓二十錢に比すれば三圓七十錢方低下し市況は前途低落の趨勢なればこゝ暫らくは當業者が賣買共に最も困難を感ずる季節である

雜錄

ひかへ帳

かもめ

◎「ねえ、貴郎、一日逢はねば千日の思ひ妾やわづらうてつてね、三千歳の口舌よ、可いわねえ、妾、女に生れたからには、唯た一度でもよい這麼に惚れ合つて見たいわ……」と夫れとはなしに解けよの謎も對手に其の氣なければ却つて興うすきは郷の戀路と思し召せ一向氣のなさゝうに聞き居たる男の「然うすると、三日も逢はねば死ぬことになる、誰が、人、其麼厄介な奴に手を出すものかよ」

◎逃れも矢張り此の類には洩れざらんか、更々思ふどにはあらねど、等閑ならぬ女心の万に盡す心中立のいぢらしく、義理と云ふもの背負はされし心知りなるだけ、却つて流石に捨ても兼ねたるにや、ある里氣の未だ全く失せぬ時も女を呼ぶは彼様の、貴女のとやらぬ女の許へ通ひ居たるがありけり稍ばつた語ばつかり、さりとては餘り莫伽々々しと、傍聞せる連なる男が詰れば『離然、君、什うしてもオイのお前のゝ言葉が呆氣なゝつて口から出ない………』

◎昔は花車が迎ひに來る程の贅盡した身の罰は覿面、紙衣にも劣る破れ布子、漸錄なりに穿き耗らしたる木履にて日を送りながら、日風呂と小袖の腑裏に絹つくることの二つばかりは、尙は暫らくは絕たざりし男ありき。

◎吐會主義の何の彼のと事新しさうに騷ぎ立つれど、逆れは我國とて昔にも在りしこと明治文明が生み出せる空前の思想とも云はゞ、何れは輸入物の誘免かれねど、唯夫れ一の履娼抬かされど〳〵此れと同時に忘るべからざるは良家の家庭に於て、以前は勿論、甚く品下りたる今日の娼婦と擇も、尙且つ減步にはロにせまじき言語の、夫より妻に妻より、夫に或は夫婦より來訪の客に、平然と交換さるゝに至りしも、或る時代の新現象たることなりと、或る時ある友の物に感じて言ひ放ちたるも、猥りに奇矯の言のみと稱ふべしやは。

◎其の人の通り名は、天保錢の入屋のと、多少血の廻りの鈍やかなる友の、御人体には似ず、詩を作つた事も流行の新口語詩をど云ふに、はて面妖なと無暗弄つて見る氣にもなりて、見せよと言へど、いつかな示せず、題ばと訊けば『戀』だと云ふに益々可笑しく、逢ふ戀、待つ戀、忍ぶ戀、戀の諸分の數々色々、彼れか逃れかと、訊ねれど皆な否々の答はなし、殘るは片戀の只一つ。『ぢや、君、「戀」は片戀か』と云へば、流石に間の惡るさうな微笑一つ『フム、實は夫れだ』。

外事一束

▲革軍● 勢力愈加はり四川討伐の湖北兵約千五百、襄陽、武昌の軍隊も皆なこれに投し今や兵數三萬五千に上る又

▲中華● 民國大統領孫逸仙南洋に軍費金四百萬圓、軍艦十四隻を齎らし不日湖北に乗込む革命軍意氣衝天の槪あり

▲清廷● 之れに反して資政院の上奏を聽許し革黨を放免し立憲政治を實行するに決し大政幾期を迫るあるを現はす。

▲借款● は更に六千萬法を增して一億五千萬法となり上諭を發して直に調印を終る貸主は白佛英の新シンヂゲート也

▲大原● 府革命黨の手に落ち北京と大原府との鐵道破壞され山海關亦暴動頻りに北京の人心益々恐惶を來すに至る

▲南京● 今や新舊兩軍の軋轢極度に達し新軍潰敗されたる武器の返還を總督に迫り何時戰亂の起るやも知れず即ち

▲總督● は新軍を城外に離隔すると共に過般買收したる一汽船に出帆命令を下し何時にても逃れ得る準備に忙しと

▲土軍● 暴風雨に乘じて伊軍を襲ひ終にトリポリを回復す伊軍死者三百負傷者七百を出し土軍意氣大に昂る然れ雖

▲首都● 君士坦丁保に於て公式に聲明されたる處に依れば土政府は英獨が平和克復の干渉を伊に試みん事を熱望す

梁川庄八

第二十六回　小金井蘆洲演

女「れ勝や嗟否だらうけれども、嗟否々と剛情を張通して若し此縁談を斷つて御代官樣に睨まれた日には住慣れた此村に居る事も出來ないやうな大騷動、且つは阿父さんが一旦約束をした事を反古にしては、阿父さんの顏にも係はる事だから、何うか此處は枉げて兩親の頼みを適へてれくれな、れ勝や阿母さんが一生の御願ひだから聞入てれくれよ」傳「何うか……れ勝や氣を靜めて默やでもあらうが三月でも半歲でも遠ざふてくれなければ、此阿父さんの云た事が嘘になる、殊に甚三郎樣は氣早やにも弟御に家督を讓つて、其身は隱居に成た者を今更斷る譯には云かぬから」と理非を說いて兩親が懇々頼むやうに言ふのて聞かせますが、唯泣て居るばかりで埒が明かない、困じ果てゝ親族總者を呼寄せて、委曲話をしていろ〳〵相談をした所が、親族の者も意外に思つたが仕方がないから、娘れ勝を外の座敷に呼んで 親「扨れ勝や……マア阿父さんも早まつた事を云つた爲に斯んな事が出來たのだが、今更云て了つた事は仕樣がない、此處でれ前が飽迄否だと剛情を張通せば阿父さんの身の詰りになる事だ、れ前だつて是れ十や十一の子供ではなし、親が難儀するも構はないと云譯はあるまい、昔しから親の爲には苦界に身を沈める者も澤山あるではないか、れ前も此家に生れたが不運とあきらめ、甚三郎殿と暫くは云はぬ三月でも半歲でも、名義さへ立てば宜いのだ、併せ物は離れ者と云譬もある、一旦貰つたからとて離別の出來ぬ事はない、何とか其中に話を付けて破緣にする事に仕樣から、此の處だけ枉げて承知して貰ひたい、と親族一同口を揃へて懇ろに云て聞かせました者だから、れ勝も據なく泣く〳〵承知は致しましたが、茲に一つの困る事が有ると云のは、どうか此娘ぜ好い間になり二世かけて深く約束を契つて居る者がございまする、夫れは何者だと云ふと此隣村に和泉村と云のがあつて其和泉村の農夫孝太郎と云がある、此孝太郎は父が先達て死くなりまして只一人の母親に仕へて事の外の孝行者、名は其人の實を現はすと云ふが實に孝太郎と云名の通り、孝子は貧家の門より出ると云が田地の一反も持たぬ小百性、人の傭みを受けて日々踏方に傭はれて居ります、性來親孝行で位ですから正直な男で忠實に働く者ですから、近郷近在に至る迄至て評判よく大庄屋人の愛顧を受けて居ります、大体生れつき小力がある者だから、家藏を造る地形固めや何かの手傳には人が喜んで使用してくれる、恰度荒居村大庄屋傳兵衛の處で裏の空地へ土藏を建るについて例の通り孝太郎が頼まれて働きに來る或時は木小屋の番をするに付て木小屋で泊る事もございます、至つて氣の優しい男振も色は白し愛嬌のある質です、戀は曲者なんと云ますが、大庄屋傳兵衛の娘れ勝が何時しか此孝太郎に懸想をして、乳母のれ芳と云者が其中を媒介して、窃かに人目の關を憚つて妹脊の契を結んだのでございます、此度親の頼みや親族の意見に從ひ據なく代官の悴甚三郎を聟に取るに就ては何とか孝太郎の方を埒を明けなければならない、併し娘心の恥かしく斯う云譯とも云出し兼て、乳母のれ芳に打明けました 芳「れ代官の若旦那甚三郎樣を聟に取る事は、親い手前是非なく承知は致しましたが、實は誠に親には濟まぬ事とは知りながら彼の孝太郎さんとは末掛けて堅い約束を致しましたにより、若しや御祝言の時に孝太郎殿は然ふ云ふ心はないとした所が側に智惠を附る者があつて騷動が出來ないとも知れんによつて、何うか孝太郎さんに此譯を話をして手を切て下さるやうにと云事だから、親族の者も一時は驚いたが仕方がない、親「然うか出來て居たとは氣つかなかつた、が夫は何の仔細はない、乃公達が孝太郎に示談を頼んで緣を切て貰ふ事にしやう、對手が孝太郎だけに話は直ぐに付くに相違ないから」と親戚一同の者が種々相談をした上に、折柄孝太郎が普請場に煙草休みを致して居るのを孝ひ一室に呼込ました、孝太郎は大庄屋樣御親族が御揃ひで、何か御用があると云ので、何事が出來したのかと不審に思ひながら這入て參りました。



東京電報

▲香港の大混雑 在香港舟津領事發外務省着電によれば廣東に於ける人心動揺の結果該地より當地に避難する者多く渡軍艦は毎度滿員にして水師提督李準其他高官の家族にして當地に引返したる者頗る多く目下大混雑中なり

▲仙頭も不穏 一日午後八時仙頭郵便局長發電に據れば時局に關し同地も去月二十七日以來人民動揺し市場沈衰錢商又取付に逢い居れり

▲奉天軍隊出動 奉天小池總領事發外務省着電に據れば同地清國陸軍第二十鎭歩兵第二十標第一營の兵士二百八十名馬匹七十二頭山砲野砲十八門は本溪湖驛より京奉線にて保定に出發せり

▲工場法施行豫算削除 農商務省は來る四十六年より工場法を施行する豫定にて明年度豫算に施行準備費約三十萬圓を計上したるも大藏省に於て査定の結果全部削除せられたれば從つて施行期は四十七年以降となる可し

▲地方功勞者表彰 内務省は三日天長節の佳節をトし優良なる自治體救濟事業衛生醫術功勞者各團體等を表彰し奬勵及助成金を夫々交附したり

▲上海の情報 二日上海發の日清汽船會社着電によれば同地防護の爲め只今衛兵一千名來着城内及び甘露路に分駐す猶當地は毎夜匪類横行寄路を擅にし人心恟々として物騒を極め居れり

▲天長節快晴 東京に於ける天長節は快晴にて盛んなりし

▲政友會の議會割役 來期議會に於ける政友會の役員割は議長候補者に大岡松田兩氏の暗闘あるが如く傳へられたるも大勢は既に大岡氏に歸着したり總理には杉田氏を筆頭に之に尾崎氏を配し補佐役として岡崎、伊藤、奥、改野、永江の五氏を擧げ豫算委員長に野田卯太郎氏を推す事に内定し西園寺總裁の裁決を經て指名さる可しと云ふ

▲革軍機器局占領 海軍省着公報によれば三日午後五時革命軍江南機器局を占領し上海も既に革命軍の占領する處となれりと

北京特電

▲南京日に危し 南京の形勢日に非にして今や兩三日中も平和を維持し難かる可き情勢なり同地に於ける新軍の態度を聞くに南京總督衙門及江寧將軍は武昌叛軍に對し新軍の内應せん事を恐て或は城外に駐屯せしめんと企て一個聯隊を城外に移し二個聯隊を城内に置き巡防隊のみにて警戒し居れり然れば新軍の不平益々加はり既に勃發せんとしたるも幸ひに官軍漢口占領の報傳はりて一時鎭靜せしが昨今又々官軍の敗報傳へられ新軍の勃發は遂に免る可らずと推測せらるゝに到れり

▲憲法と資政院 二日資政院は憲法十九ヶ條を決議し三日上奏せしに直ちに裁可を得之を標準とせよとの上諭ありたり

▲官革兩軍の休戰 資政院は革命軍に對し休戰を申込み黎元洪は二十五個條の提案をなし休戰を諾せり

▲北京滿人勃發 北京に於ける滿人は今回の政變に對し不滿を抱き大に勃發せん形勢あり

▲上海革軍に占領さる 上海は革命軍に占領され各國居留民は列國義勇兵に依りて護衛されつゝあり

上海電報

▲江南一帶危機 上海の狀官軍は革命軍に合し江南は危殆の狀態にあり

▲叛軍砲臺占領 呉淞砲臺は革命軍のために占領せらる

▲日本商店の遭難 上海支那町は叛軍退却せざるため官軍側は火を放つて退却を餘儀なくせしめ又横濱正金銀行出張所及於保田中の日本商店は全部丸燒けとなる

雜報

●歐亞聯絡列車到着 去る一日午前六時長春を發したる歐亞聯絡の第一列車は三日午前〇時五十分南大門驛へ到着せり乘客十八名あり寺内總督よりは濟酒一樽を贈りて其の安着を祝し主客共に萬歳を唱へて解散したるが此汽車は四日午後八時三十分南大門着釜山よりの列車と連絡して長春へ引返す筈なれば釜山より歐羅巴へ向ふ列車は之れを以て嚆矢となす

●第一回の商工調査會 商工調査會にては各方面より委員の手元へ種々の問題を提出し來るを以て來る十日商業會議所樓上に於て第一回例會を開く由なり提出問題の重なるものは左の如し

(一)日鮮人間に於ける取引慣習を改善すること
(二)重要貨物關稅鑑定調査の件
(三)民業に對する官營事業の影響調査の件

●總督の出發期 寺内總督は愈來る八日出發大演習地へ向ふ筈なるが明石少將柴少將及總督府武官等隨行すべしと

●臨時長官會議 四日午前九時總督府に於て臨時長官會議を開き寺内總督、山縣政務總監以下倉富、石塚、荒井、池田の各部局長、明石總長、小松、菊池の臨時長官事務取扱儀副總裁小城長官代理秋山參事官兒玉會計局長列席政務の打合せを議し正午散會せり

●飲食物取締規則 從來日本内地に於て施行されつゝある飲食物取締規則は今回勅令第二百七十二號を以て朝鮮に於て施行する事となり十月廿八日より實施されたり

●米作豫想發表期 本月二日發表の筈なりし朝鮮第二回米作收穫豫想高は咸鏡北道の一部取纏らざりし爲め其の發表を見合せたる由にて來る七日頃發表の運びに至る可しと云ふ

利息制限法に付て

…安住司法部民事課長談…

十一月一日法律第三十號第一條及第二條に依り公布されたる利息制限令は一般の金貸業者を取締る上に於て必要事たるは言ふ迄もなし而して内地の制限令に比して幾分其の制合の高率なるは朝鮮の狀態に鑑みて制定したる所以なりすなはち從來内地人等にあつての制限は日本の法令に從ひ(内地人が債權者にして鮮人及び外國人が債務者たる場合に於ても同樣)鮮人は韓國政府時代に制定されたる制限令に依り乃ち内地人にあつては百圓以下二割百圓以上千圓以下一割五分千圓以上一割二分にて鮮人は凡て四割となり居りたるが今回の制限は其の中庸を取つて定めたるものなり而して法定利息(無契約のもの)は今のところ日鮮人同樣には定められず日人にあつては日本の民法に依り年五分鮮人にあつては年二割なるが是等も追々に同樣の制限法を設くるにいたるべしされど金貸業者の手段如何に依つては規定以外の暴利を貪ることあらんも是等は到底合意の上の貸借なれば如何とも制裁を加ふるの餘地なし假令ば貸借の際(記者の問に對しての辨明)千圓の貸借を爲すと假定して債權者が高額なる利息手數料を全部テン引きにし而して其の殘部を貸與して而も一千圓の約束手形をなす場合に於ては开は如何にしても履行せざるべからず尤も約手は約手として反面に於て之れが暴利たるの有力の證據にしてあらば制限令施行の實なきに非ざるもさもなき以上は裁判上何等論ずるの餘地なし要するに前述の如く双方合意の上にして而も裁判上何等認むべき證據なくんば如何に債權者が無法の高利を貪ると雖も如何ともに爲すに由なきは何れの時と雖も異ならじ朝鮮に於ては單に利息制限令に止まらず今後制定すべき法令少なからざるが親族法相續法不動産に關する諸法令の如きは必要なるものなれども從來の習慣に依り俄かに制定することは困難なるべし云々と

●京城民會委員會 京城民會にては四日午後一時より委員會を開き豫て懸案の漢城病院改革問題につき協議し決定の上同日午後三時より開會の民會に提出し決議を見るにいたるべしといふ

●仁川商議總會 仁川商業會議所にては六日午後七時より臨時總會を開き副會頭の撰擧を行ふ由

●裁判所管内會議 京城地方裁判所にては管内各區裁判所の監督判事及檢事を召集し四日より會議を開きつゝあり

盛なりし天長節

天長佳節當日は天清らかに晴渡りて一點の雲を止めず異に申分なき好天氣にして殊に温暖なりしかば舉て此大祝日を待構へをりし市民の喜悦は譬ふるに物なく各商店各工場等は舉つて休業なし店頭には幔幕を引めぐらし國旗は市中の隅より端まで各戸の軒頭洩れなく翻がへり夜に入りては軒燈或ひは紅球燈を吊し美觀を添へ市民の老若男女は今日を晴れと着飾りて一家團欒祝杯を擧げ公の儀式としては官民の奉祝會各官廳各學校の拜賀式あり又奉祝の餘興として我社主催の京城藝妓總出の神田祭式手古舞行列を始め幾多の催しありて市中の賑ひ之れが爲に一段の盛を加へ實に和氣藹然鼓腹撃壌の至樂境を現出し目出度しとも芽出度の限りなりしさて

▲奉祝會場 は既報の如く長谷川町の南別宮(圜丘壇)内にして正門には大國旗を交叉し門柱は悉く紅白の布を以て之を包みて美觀を添へさしもの廣き庭園は雑草を刈り盡し清掃一點の塵を殘さず酒肴券引換所は二ヶ所に設けられて混雜を防ぎ天幕を張りて白布を覆ひたる幾十の長食卓を按排せる立食場は千幾百の會員を容るゝも敢て狭きを感ぜしめず立食場の後には模擬喫茶店を設け會食者の便利を圖り式場は門より進む數百歩圜丘壇の横手に設けられ一段高き所に紫の幔幕を引絞れる式壇あり其横手に樂隊の屯所あり藝妓餘興藝妓生鮮臺鮮人の綱渡り演藝場等は會食場の程近き所に網へられ十二ヶ所の模擬店は會場の東西南北に分れ適當の場所を撰びて設けし等會場としての設備の行届けるには會員をして滿足せしめたり

▲來會者千五百 午前十一時となるや南山倭城臺より煙火は續々として打揚げられ舉式の刻一刻と迫りつゝあるを報じぬ轟然たる煙火の響きに會員は禮裝して三々五々會場に到着受附所に於て舉式次第場内案内圖及び酒肴券等を受取りて入場し正午となるや來會者日鮮人合して千五百餘名と算せらる來會者の重なるものは山縣政務總監上田軍司令官各部長官朝鮮貴族明石憲兵隊司令官民會議員商業會議員新聞記者等にして檜垣道長官大庭京城府尹古城民長海津民會議長深水商議副會頭京城二新聞社長は發起者として會場掛員の指揮に當れり愈々舉式の刻限となるや爆竹を相圖に會員は式場に集合せり

▲舉式の次第 を記さんに一段高き式壇には山縣政務總監上田軍司令官總督府各部長官明石總長檜垣道長官大庭府尹古城民長海津民會議長其他本會の發起者居並び前面の卓には菊花を挿める瓶を置き千有餘の會員は之に向つて整列し古城民長は卓前に進み發起者を代表して

恭しく 允文允武聖上陛下御誕辰の佳節に遭遇す、微臣某等誠恐誠惶新附同胞と共に謹みて皇祚の無窮と邦家の隆運を奉祝せんために茲に此會を開けり。恭しく惟みれば昨年日韓併合後聖敬日に躋り知り各々業に安んず嗚呼皇恩の至大至重我等臣民の感泣措く能はざる所なり云々

と述べ退くや、君ヶ代の國歌は樂隊によりて吹奏せられ瀏朗なる奏樂の間に京畿道長官進み出で左の奉祝の辭を朗讀せり

今上天皇陛下本日を以て六十回の聖誕の佳辰を迎へさせ給ふ恭しく惟みるに 陛下夙に英明の資を以て萬世一系の寶祚を承けさせ給ひ聖明日月に齊しく仁徳天地に洽ねく以て億兆を覆育し給ふ維新の大業を樹て給ひしより茲に四十四年皇謨日に恢弘し政綱月に擴張し今や皇化遠く朝鮮の地に及び蒼黎相融化して新政を謳歌し其業を勵み其職に安んす嗚呼聖徳の廣大なる寔に空前の盛事と云ふべき也吾等茲に新附の領士に於ける第二回の天長節に遭遇し驩喜抃躍の情に堪へざるものあり臣民相共に會合して謹で聖徳の無窮を祝ひ聖壽の万歳を賀し奉る

檜垣道長官退くや山縣政務總監の發聲にて 天皇陛下の萬歳を三唱しこれに和して式全く終れり

▲式後の光景 式終るや會員は酒肴券を受取り會食場に入り爲めに場内は歡呼の聲に滿ち又各模擬店何れも繁昌し店員の繁忙一通りならず興正に酣ならんとする頃男髷立付袴片肌脱ぎに長襦袢の賽を見せる

▲吾社主催藝妓行列 は樂を揃へて木遣音頭の節勇ましく會場に繰込みしかば滿場の觀線は悉く之れに注がれ凛々として打扮に艶を含める百幾十の藝妓は宛から百花の一時に咲出でしが如く思はず會員をして快哉を叫ばしめたるのみか山縣政務總監、上田軍司令官、其他各長官が一列して歡笑の色を面に湛わつゝ一行を引見せられしは吾社の光榮とする所なりし、斯くて藝妓は交る〱舞臺に上つて得意の舞踊をなし又もや滿場の拍手喝采を受け十二分の面目を施てし午後二時閉會員の退散と同時に退出更に市中を練行きたり

▲此他の餘興 壽町の假裝行列亦亦趣向の嶄新なるに大喝采を博し妓生舞踏鮮人の綱渡又觀者をして悦ばしめたり以上の外各官廳各學校の拜賀式總督官邸の園遊會在鄕軍人會の奉祝等は既報の順序によつて行はれ夜中に於ける本町筋の殷賑を極めたる事は云ふ迄もなき事なり

鴨綠鐵橋初渡記(二)

式場問題となつた明石少將の不脫帽

スイロー生

◉余等京城組の一行滊車を降り、頂戴の徽章を附け、頂戴のお土産を手にし歩を式場に移せば、接待員某余等に告げて曰く、式には大分マダ程がありますると、余等面喰つて歩を餘興場に轉す。

◉餘興場は鴨綠の江岸其廣きこと競馬場の如し、茲に集まれる鮮滿兩側の招待客千五百餘、遠きは營口より釜山より來る。サテ餘興中何か珍しきものやあると見て廻れば、之れは亦た月並も月並、平壤妓生の例の舞と支那人の芝居と。

◉妓生舞の舞臺の前面に扁額あり、書して曰く梅櫻競艶、桃李爭研と嗚呼朔風にプドー色と變じたる妓生の顔の美、到底扁額に書かれたる文字の美に及ぶべくもあらず。

◉支那人の芝居に到つては宛然是れ老帝國の縮圖、其不統一やれ話しの外なり、資政院にして幾多改良の事業に手を附けんとせば、先以て着手の要あるは支那芝居の改良なりとは、一行中某君の言なり。

◉模擬店數ヶ所あり、就て見るに何等飲食に適する物なし、寒さは寒し腹はヘル、如何はせんと思煩ふ時に一聲高く爆竹の音や我歡膜を破る。

◉借て之ぞ式の始まるならんと吾れも人も式場に會せば、壇上居並べるは寺内總督を筆頭として上田司令官石塚長官明石總長、小松長官其他にして綺羅星の如し。

◉時に大屋鐵道長官壇上に進み、鐵橋開通の式辭を讀む、參列の一同は勿論寺内總督上田司令官石塚長官其他悉く脫帽して式辭を謹聽す、滿場宛から水を打てるが如し。

◉獨り警務總長たる明石君脫帽せず、衆目異なりとして之に注ぐ、大屋君の式辭了る、此時何人か明石君に注意す明石君即ち帽を脫す。

◉聞く陸軍は禮儀嚴なり一上等兵の途上曹長に會して規定の禮を施さゞる者あれば其罪必ずや譴責に値ひするの程なり、而るに任に朝鮮駐剳憲兵司令官に在り、駐剳軍隊風紀の取締を爲すべき明石君にして式場最も神聖なる壇上に立ち、寺内總督上田司令官の脫帽せる場合に於ても其帽を脫せず。

◉宜なり衆人の異なりとして明石君に眼を注げるを、而かも人の間違に故意と不故意とあり、然らば明石君の非脫帽は故意か不故意か、記者は序を以てこれを明石君に問はんとす。

●仁川の天長節 三日天長節當日仁川市中に於ける景況を記さんに左の如し

▲日鮮人合同奉祝會 は日本公園地内の廣場に於て舉げられたるが會場周圍には紅白の幔幕を引廻らし中央より四方に萬國旗を吊り渡し式場入口には大綠門を設け正午一發の煙花を合圖に開會し久水府尹の祝辭、仁川商議所長徐相彬氏の祝辭ありて立食の宴に移り宴酣にして岩崎民長の發聲にて 陛下の万歳を三唱し一同聖壽の無窮を祈りて散會したるは午後一時半なりしが參列者五百餘名頗る盛會なりき又た夜間は

▲府尹招待夜會 午後六時より仁川俱樂部樓上に開催され會する者仁川在留諸外國人日鮮紳士淑女三百餘名にして立食の饗應あり聽て府尹の祝辭 陛下萬歳の三唱あり來會者一同之れに和し歡を盡して散會したるは七時半なりき

●教育官吏任命 朝鮮學制改革の結果元外國語學校長田中玄黃氏其他に對し左の任命ありたり

從七位 田中玄黃 任平壤高等普通學校長
從六位 桑原護一 任京城女子高等普通學校長
高橋享 任京城高等普通學校教諭(六等)
正八位 垣戸鶴吉 任京城高等普通學校教諭(六等)
上田駿一郎 任京城高等普通學校教諭敍朝鮮總督府通譯官(六等)
朝鮮總督府屬 立花毅 兼任京城高等普通學校教諭(六等)

◉府郡參事の諮問會 京畿道廳にては四日より府郡參事諮問會を開會し過般來各郡にて開會せざりし地方の郡參事を招集したりと云ふ

◉鹽澤憲兵中佐の歸任 入京中なりし黃海道警務部長鹽澤中佐は四日午前歸任の途に就きたり

◉岩佐東拓理事の一行 北鮮地方を視察したる岩佐東拓理事外四名の一行は元山より京城迄陸行歸社の筈なりと

公人私人

▲井上禮之助(釜山百三十支店長) 二日釜山行
▲鹽澤義夫(海州憲兵隊長憲兵中佐) 二日山本旅館へ
▲河野生長(鹿兒島縣立農學校長) 二日浦尾旅館へ
▲岡田時太郎(技師) 二日天眞樓へ
▲野田卯太郎(衆議院議員) 三日釜山行
▲內田良平(三日南大門驛發) 釜山行
▲末永純一郎(遼東新報社々長) 三日釜山行
▲飯岡政重(鑛山技師) 同釜山行
▲村井靜夫(水原慈惠醫院々長) 同水原行
▲正木良一(三菱技師) 同釜山行
▲前田復三(三菱技師) 同釜山行
▲大田辰二(警察醫) 同國實旅館へ

十一月四日 金 高 一六一、五四六、〇一〇 收 四七六 曜

▲茶袋▼

一度び官軍の手に取復された漢口は又もや革命軍に奪ひ返された、武昌、漢口の地は古への荊州にして、蜀呉魏の所謂三國が相爭ひて占據せんとしたる所にして、諸葛孔明の智謀を以てしてさへも之を手に入れることの出來なかつた形勝の地である△呉の孫權、魏の曹操や、蜀の劉玄德や、千載の下兒童走卒をして尚其姓名を記臆せしむ、革命軍の黎元洪、王得勝、董興等の輩にして能く斯の如くなるを得ば彼等又人傑たるを失はない△悲痛なる清帝の上諭出で頽た清廷の今日に同情せざるを得ない、併し此上諭が果して民心を繫ぐに効あるや否これは疑問である△清國の今日では、彼資政院が決議せる如く責任内閣を作り國會を開いて見た所で、天下の人心忽ち靡然として歸一すると思ふは間違だ、さりとは資政院も亦迂濶千萬である△抗州の革命黨青年百餘名岳飛の墓を展して後緒東漢口に向つたとか、ドコ迄も水滸傳式なり△衆議院では清國の現狀を視察せしむるために議員を派遣するといふ事である、此事たる國家に於て何等直接の利益なしとするも、議員の見聞を廣くすると云ふ事から考へると全く無益のものでもない。

奉祝天長節

當日第一の偉觀

▼本社主催手古舞行列

本社主催京城藝妓總出の奉祝天長節神田祭式手古舞行列は豫定の如く擧行せられたり盛觀豫想の外に出で塔を繞ける沿道の觀衆は歡喜の眼を輝したり左に概況を報道すべし

▲券番前の集合　男髷、花笠、肌脱ぎ、火用心裁付袴二枚草鞋に金棒曳き伴れたる花月、掬翠、清華、松葉、井門の各妓は中券番前に、清水席、菊家、玉家、萬家、花家の各妓は京城券番前に集合して午前九時と云ふに中券番は

▲江戸菊の黄色なるを飾り無く綴りたるに同じ花の紅なるを以て奉祝の二字を鮮に現はしたる扁額を先頭に中央に紫縮緬に白く中券番と染拔きたる二旒の旗を押し立て紅白の揃縮に行列を整へ井門、花月、清華、松葉、掬翠の順にて當日の集合場たる日の出稲荷高等小學校運動場に押し出し南寄りに整列したり、一方京城券にては

▲紅地に白もて奉祝と現はしたる扁額を中央に京城券番と染拔きたる旗二旒を押し立て人力車を驅り相前後して參着し中券番と同じく南寄り東向きに整列したり、日は麗に風暖く披へるが如き碧空の下に咲き揃ひたる解語の花、寧ろ野を錦に見る如然に千紫萬紅、幷が中央に押し立てられたる奉祝京城新報主催と書かれし

▲金件連の大纏は我京城新報の法被着たる

▲五人の消防夫に衞られて殿として立つ京城券番の各關係者は印袢纏、股引姿に所屬藝妓警備の任に當り中券番に屬する各樓主は紋付羽織に同じく所屬藝妓世話万端に奔走し九時半一同打揃ひたる時岩田寫眞舘の手に

▲記念の撮影を成し爆竹を相圖に先頭に金仲連を押し立て京城券番中券番の順にて新作木遣節勇ましく豫定の順路を逆に大和町を新町に向ふ途次山縣政務總監邸に練込み萬歳を三唱して祝賀の意を表したるに同邸よりも又叮重なる答禮あり、其所を出てゝ行列は一直線に足取壘かに新町遊廓に練込みたるに不意を食つたる廓內の有志の内にも

▲玉家淸月の二樓にては逸早くも樓前に茶菓を出し接待に努めたゞ今更ならぬ早速の働き目覺ましとも目覺ましかりしが淸月にては更らに酒を供して其勞を犒ひたり折柄木遣節に夢を破られたる各樓の美妓は玄關前に二階欄干に驅け出で見送さじと犇きたり、此に牡丹の艶あれば此に櫻の趣きあり宛然

▲花野路分けて花の山に入るの思ひあり此所を出でたる行列は本町通りに出でて意氣更らに加はり此空前の大行列を見落さじと人垣造る中を旭旗、毬燈、造花にて飾られたる彩霞の中を音頭に伴れて木遣唄ひ伴れて行く姿の美しく勇ましに突き鳴らす金棒の音は

▲聖壽萬歳と響くと聞きなる本町六丁目田中酒店にて冷酒の饗を受け六丁目を永樂町に折れて幾代に於て更に湯、酒、等の饗を受け黄金町通りに出で、井手商店にて砂糖湯、酒、ウヰスキー等の饗あり南大門通りを右折し電車線路に沿ひて南大門通り三四丁目小路俗に紅葉小路を長谷川町に出で木遣音頭の節面白く

▲曾場正門を練込み直ちに式場に充てられたる廣場にて京城券番、中券番各藝妓の木遣音頭あり、山縣政務總監、上田司令官、各部長官、明石總長其他各來賓、民間主人側の各氏と觀覧しつゝ終始滿足氣に見物せられたるが其萬歳を三唱するに當つて政務總監以下一齊に擧手の答禮あり終つて直ちに餘興舞臺に於て

▲京城券の餘興手踊あり踊手は菊家の菊枝、玉家の靜江、金子、小金、淸水席の政彌、政奴、笑太郎、花家の小奴、小蝶、萬家の雛子歌ひ淸水席の靜、花家の濱、三味線文之助、い京等にして拍手喝采の間に舞臺を下るや代つて

▲中券番の餘興は花月の桃太郎、勝次、ぼたん、小高、掬翠のた染、れも茶、淸華の丸子、三吉、松葉の浦子、勝子の舞に花月の勝利、若一、井門の助六、淸華の春吉（元鈴奴）の三味井門の政子淸華の今奴の歌にて此又大唱采の間に演了せらるゝや此所に晝食を終り再び隊伍を整へて豫定の順路を變更し人の海を押し披いて長谷川町を南大門通に出で本町一丁目京城府廳前、民團役所前にて吏員の迎接を受け萬歳を三唱し再び南大門通りを本町一丁目に出で本町四丁目を大和町總督官邸前に出で叮重なる迎接を受け萬歳を三唱し更らに明石總長官邸前に萬歳を三唱し、倭城臺太神宮前に於て恭しく皇壽萬歳を唱へて無事解散したるは午後三時半なりき

▲行列追從雜觀

▲中券と京城券の先後は抽籤に依つて定められたものだ相だが京城券の始終中券番との聯絡を失はざらんことに心掛け中檢又克く秩序を重んじ毫も斯る場合有勝ちの反目の態なかりしは芽出度日に芽出度き事なりし

▲中券の衣裳は各樓々々にて揃衣が異つて居たが京城券番は人數が四十幾名なので忠臣藏好みに四十七義士の名前を散し書にした揃衣に片肌脱ぎの思ひ〳〵の色美しき友禪羽二重、縮緬なりの長襦袢を重ねたるは兩券ともに同じく美しい事であつた

▲中券の音頭は消防夫の夫れの外に井門は政子、助六、花月の勝利、若一、松葉の時松、淸華亭は三太、今奴、掬翠にては江戸奴等の姐さん連が色氣放れて相勤めたり豆絞りの手拭を襟に花笠を脊負ひタッチケ袴に火の用心、肌脱姿で金棒曳いた一百餘妓の過ぎ行く所瑞雲搖曳するを覺わた欲を云ふと扇子がた約束の牡丹に獅子の繪扇で無くこれに代るに日の丸の白扇で有つた事が殘念の一つ

▲京城券の音頭は取締文之助が大童に丁其統一を圖つて居たが一つは人數が少なかつた所爲だらう能く合つた本町に入つてからは彼の通り狹い所の事とて勢い行列が細長くなる爲らぬだに人數の多い中券の音頭が尻まで屆かず姐さん連の江戸奴でさね不平たら〳〵自分で音頭を取り始めたのであつたが此れは何方に無理のあつた次第でなし

▲花月のチョコマン知惠子ちやんが未だやつと十一の年弱ながら最初から終ひ迄少しも疲れた模樣なく元氣なものにてアリヤコリヤサと聲張上げて居たのと京城券の玉家の仇吉と金奴、仇の方は前夜車から落ちて左肩部を挫いた痛みの去らぬのに金の方は前日來の病体なるにも拘はらず行列に加はつたことは多とすべきに足る

▲櫻川園好は靑木堂君の羽二重の袢天姿で意氣な所を花月の姉さん方の中へ交へて居たが當人の思つてる程意氣では無つた雜觀書けは未だ何程でもあるが追々花柳界便りなぞで御披露するとゝする

沿道の士女歎賞「一番の觀物だ」と標題の依つて出づる所なり

チャンピオン傳（五）

元花月樓藝妓　艶子

元は花月の藝妓であつたらうが今は當地に關係なき艶子を紹介すると申すと少々變であるが夫れが決して變でない次第は彼れは目下別府より歸り來つて京城に其姿を現はして居るのだ

元花月樓の琵琶藝妓艶子、彼は曾て錦統の息芳川寛二君の知る所となり特に御盛の殊遇を蒙つて秘藏の筑前琵琶一面を賜はり既にして琵琶に依つて同統盟の寵愛を蒙つて居つた事は普く人の知る所である、然るに久しからずして統盟は廝將に觀られて遺恨を千秋に貽して湘南の別墅に逝いて又歸らざる人となられると間もなく寛二君も當地を去つたので世に春乍ら賴まれぬ人の世を喞ちて居たが名馬豈に久しく槽櫪の間に死せんや久しからずして天の寵過は彼れの上に下つて再び花咲く春に巡り會つてからの一條は彼れ艶子の話を其儘に紹介しよう「一時は蹙うしようかと途方に暮れて居ましたが棄てる神あれば助ける神ありの諺通り不圖し事が御緣と成り御贔負を受ける事になつたのが當時龍山に住居であつた明石樣其明石樣に落籍れましたのが本年の初で暫時の間或るホテルに手傳名儀で預けられて居ました、井上雅二樣の歡迎會の有りました時白い前垂で馴れぬ洋食のお給仕をした事は皆樣御承知の通りです何日迄も其樣事を致して居る約束では無いので間も無く御存じでしよう例の琵琶と云ふから思ひ附いて蟬丸と云ふ番家を出し自分は同じ蟬丸と云ふ名で琵琶を看板に遊び半分左褄を取つて居ましたが明石の旦那樣の方に何か御都合があるとかで暫らく大分の別府の方へ保養旁々遊びに行つて居れと五百圓のお小遣を頂戴し好な琵琶を抱ゐて別府の溫泉に旦那樣から歸つて來いのお手紙が今日か明日かと下司に生れた身の小督局程の決心はなく仲國の其お使を頂くのを指折數へ琵琶掻き鳴らし待てど暮せど壯健なかとのお手紙も下さらぬ、元來左樣したお約束では無い一生見棄てぬとあつたのにお恨めしいと思ひ詰めては矢も楯も堪らず、恨めしいけど戀しい旦那樣のお心の程を確かめんと四五日前龍山の親戚の所まで歸つて參りまして人を頼んで明石の旦那さまにお話を致して居ります」と琵琶を抱いてポロ〳〵と泣く、之れを聞く人の「お前の云ふ明石樣とは全体何處の明石樣か」と裏問へば、彼れは莞爾と打笑みつ一段聲を張り上げて——「妾の所夫と賴みたる明石の殿と申すは陸軍少將にして檢非違使たる警務總長明石元二郎閣下と思し召せ」パリン〳〵呆るゝ人を尻目に懸ける、以上は彼の語る所なるが要するに謹嚴なる明石閣下が彼に對し然る約束をせられしとは信ぜられず、若し有りたりとせば夫は酒興の戲言なるべきを夫れとも思はず一圖に夫れと思ひ込む彼れは馬鹿正直のチャンピオン（終）

●學校教員の窃盜　東京市四ッ谷區寺町二十九番戶籍住所不定私立鐘路興化學校教員鈴木貞雄（三五）は元西小門通り朝鮮新聞廣告販賣取扱所エビスヤ支店へ雇れ中廣告料金五圓を橫領し又同支店内瀨川可也の懷中時計を橫領逃走しエビスヤ支店より告訴され此頃南部署に捕れ目下取調中

●秋季素人自轉車競走會　三日午前十時より訓練院に於て開催せられたり例の如き天氣に加ふるに天長節の事とてさしもに廣き訓練院の原も人を以て埋められたり第二流選手競走に入り龍馬一着を占め米田第二着と驅せらる次で第一撰手四十五周は相澤一着、東朴、佐々木の順にて入賞次に聯合二十周に相澤、東、龍馬が優勝し賞品の授受ありて散會したるは暮色蒼然たる頃也し

●仙友會例會　仙友會にては今五日旭町白水に於て十一月例會を開催し席上例に依り天草神來、淸水東雲、湊汲古諸齋伯の席上揮毫等ありと

日曜集會

▲メソヂスト教會（旭町二丁目）午前九時日曜學校同十時半より禮拜說教午後七時よりジョンソン博士の傳道說教

▲京城基督教會（相生町）午前十時丹羽淸次郎氏の禮拜說教午後七時半より原島氏の傳道說教ありと

廣告

公告

第四二號

一皇太子殿下御渡韓紀念繪葉書　五千三百組

右ハ天長節慶祝ノ爲京城本町四丁目日出商行椎本宇之助殿ヨリ當民團立各學校及幼稚園兒童ヘ寄贈相成候條此段公告ス

明治四十四年十一月四日

京城居留民團役所